

釧新郷士芸術賞に輝く

< 3 >

各レコード会社
で振付けも

昭和三十三年、釧路劇場で名披露目公演をした。演目は吉野山「忠信」。当時二十歳になったばかりだった。この日からすでに二十年の歳月が過ぎようとしている。隅り一筋の人生は徳伸さんのすべてであり生きがいでもある。

受賞者の横顔

◇日本舞踊
花柳徳伸さん



十一年九月、樺太の留多加に生まれて部隊慰問に出かけたという。二十三年、釧路市に引き揚げ、花柳徳保さんに師事す

る。こうして花柳徳伸が誕生したが、常に芸域を広げようと努力し、ピクチャー、コロムビア、東芝、キング、クラウンのレコード会社の専属振付け講師として、「古城」「男三昧線」「あゝ松前城」など教え切れないほどの曲に振り付けている。そして、三十七年から市公民館の成人学校舞踊科

の講師も担当し、その後、なでしこ、友鶴、秋などの九つの婦人舞踊サークルを踏足させた。一年に一度は中央の舞台を

また、四十九年二月、ニースの舞台を披露し、在留邦人を感激させ、内外ともに日本舞踊の美を誇りしように努めている。そして四十五年から上方舞の名手で吉村流家元、雄輝氏に師事した。これは「花柳の江戸舞の良さと、上方舞の静けさのなかに移められた心の表現を学ぶため」といい、飽くことを知らぬ貪欲さで精進を続けている。いまでも一年に一度は中央の舞台を見るため、花柳徳太郎師匠のもとを訪れては、芸の研さんを怠らない。

シスコで感激の舞台

踊りひと筋の迫力!

カーニバルに出演し、五十一年九月、サンフランシスコであてやかな日本舞踊を披露する徳伸さん

ことしの釧路市芸術祭に初公演した日本舞踊協会の舞台に、創作舞踊「水」を披露した。水の流れはいつも己れの進路を求めて動く。これこそ自分の姿ではないか。と、この舞台の前三日ほどはさまざまに心を碎き、宗教学をひもといたりした。終わって定光寺住職の大道晃仙さんから「人は人、己れは己れ我が道を行く」の色紙をもらって感激したという。こんご伸茂、伸典、伸淑美、伸登女、伸奈緒、伸紫峰の六人の名取を出し伸忠、伸奈、伸敏充に加えて、徳伸会はさらに大きくなった。「きびしい道だから精進しようとする心が生まれます。私の持っているものは、すべてお弟子さんに分け与えるつもり」と頬を引きしめた。四十一歳。